

## 令和7年度 第1回 岡山県総合教育会議

日 時：令和7年10月3日（金）13:00～13:40

場 所：岡山県庁3階 第1会議室

|        |       |
|--------|-------|
| 出席者：知事 | 伊原木隆太 |
| 教育長    | 中村 正芳 |
| 教育委員   | 上地 玲子 |
| 教育委員   | 服部 俊也 |
| 教育委員   | 梶谷 俊介 |
| 教育委員   | 田野 美佐 |
| 教育委員   | 須江 健治 |

### 【総合政策局長】

それでは、本年度の第1回目の岡山県総合教育会議を開催させていただきます。

では、議事進行を議長であります知事をお願いいたします。

### 【伊原木知事】

皆さま方、大変お忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。

本日のテーマは、「令和8年度における取組の方向性について」でございます。教育について「夢を育む教育県岡山の推進」を第4次生き生きプランの重点戦略に位置付けまして、各種施策を推進しているところでございます。近年で見れば、中学校では全国平均と同程度の学力が定着しており、一定の成果が現れたものと考えております。

その一方で、今年7月の全国学力・学習状況調査で見えますと、小学校の算数で全国を2ポイント下回ったこと、またここ数年、授業以外で平日に1時間以上学習する中学生の割合が小学生より少なく、またさらに減少傾向にあるということについて、明らかに何かおかしいというふうに理解をしています。

本日は、こうした課題に加えて、不登校対策、グローバル人材の育成、教員の働き方改革といった諸課題について、私自身、教育を一丁目一番地に掲げて知事にさせていただいてから13年ほど経ったわけであります。どこはうまくいって、どこについてまだまだ駄目か、現在地について確認する一つの機会にしたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

まず、説明のほうからよろしくお願いします。

### 【教育政策課長】

教育の現状と対策の方向性についてでございますが、お手元の資料をご覧ください。

お手元の資料の1ページ上段、学力の現状ということであります。

小学校の国語は、近年全国平均を上回っておりますけれども、算数は全国平均を下回っている状況。一方、右の中学校は、国語、数学とも改善傾向にあり、全国平均とほぼ同程度の水準でございます。下のグラフの、学習内容の理解や見直し、次の学習へのつなげ方を示す自己調整力に関しては、小・中学校とも全国平均並みでありますけれども、令和7年度は全国平均を下回っているところでございます。

この現状に対しまして、一番下の対策の方向性ですけれども、小学校算数の授業改善に向けた指導資料の作成や補充学習の支援を行う必要があり、さらに各教科におけるPBLの推進により、学ぶ力の育成を図るとともに、学校の学びと家庭の学びを連動させる好事例を紹介することで、家庭学習の充実を図る必要があると考えております。

続いて、2ページをご覧ください。不登校・長期欠席の状況でございます。

折れ線グラフの数値は、小・中学校の不登校出現率です。増加傾向にあるものの、全国平均を下回っているところであります。中段の高校の不登校出現率は、減少傾向から増加に転じ、全国平均を上回っているところでございます。また、一番下のグラフでありますけれども、不登校児童生徒の約半数は新規の不登校者でありまして、岡山県も同様の傾向があるということでございます。

対策の方向性としましては、不登校状態の改善につながっている、自立応援室の運営に関わる支援員の充実などによる早期対応が必要であること、また生徒指導の考え方を、「させる」生徒指導から、児童生徒の自主的・主体的な成長を「支える」生徒指導へと転換し、そのための研究と展開を進める必要があると考えております。

続きまして、3ページをお願いいたします。

海外留学者数は回復傾向にございましたが、令和6年度は円安や物価高騰などの影響で減少に転じております。ただし、10日以上14日未満の留学は増加しています。

中ほどの対策の方向性であります。留学経費の一部支援の拡充や、留学経験者の経験を還元する仕組みづくりにより、高校生の関心と意欲を高め、また海外からの留学生の受け入れ環境の充実を図ることが必要と考えております。

下段の教職員の働き方改革でございます。

令和3年度と比較しまして、時間外在校等時間は全校種で改善傾向にありますが、令和7年度は中学校、高校で月45時間以上となっております。

対策の方向性であります。教師業務アシスタントや部活動指導員といった、外部人材の配置拡充、それからクラウドを活用したネットワーク環境整備による校務のDX推進が必要と考えております。

最後に、4ページをお願いいたします。

先ほども知事のご発言にもありました、学力の中でも特に課題となっております小学校算数、それから中学校の学習時間についてでございます。上の1番、一番上のグラフにありますように、小学校算数は全国平均以下が続き、これまでも授業改善のための研修や定着状況の確認などの対策を行い、(2)にありますように、基礎基本の定着には一定の成果が見

られておりますが、児童が割合や分数といった概念を理解する力に課題があり、また岡山県の児童が苦手としている問題を、授業や補充学習でどう指導していくか、そういう視点での施策不足も課題だと考えております。今後は、算数の指導において焦点を絞った資料を作成し、授業や補習で活用していくとともに、大学教授の指導助言を踏まえ、学力調査結果の分析に基づいた算数の指導、支援体制の構築を図ってまいりたいと考えております。

最後に、「2 授業以外で平日に1時間以上学習する児童生徒の割合の推移」であります。右側のグラフですが、中学生の学習時間は全国平均を下回っている状況でございます。

(2) 現状・課題であります。本県実施のスマホ利用実態調査では、中学生のスマホ所持率や利用時間が増加傾向にあること、またその下の、「工夫して家庭学習に取り組めるような指導を行った」と回答した本県中学校の割合、それからその下の学習意欲に関する設問に肯定的に回答した本県中学生の割合は、ともに全国に比べて低い状況となっております。

(3) 今後の対策であります。『OKAYAMA ゆめスマサミット』により、スマホ等の適切な利用について考えを深める取組を進めるとともに、本年度から導入した生成AIアプリを活用したモデル校の取組を充実させ、学校と家庭の学びの連動を強化し、その成果を全県に普及することとしております。

説明は以上でございます。

#### 【伊原木知事】

非常に短時間で、大変情報量の多い、いい説明をありがとうございました。すごくいい説明だったと思います。

では、それぞれの委員の方にご意見をお聞かせいただきたいと思います。

では、上地委員からお願いします。

#### 【上地委員】

ありがとうございます。小学生の算数の定着が弱いということと、中学生の自習の時間が少ないかなということについてですが、先ほど小学生の概念の理解に非常に課題があるということだったと思います。割合が分からないとか、ひし型が分からないとか、こういったことは恐らく実体験がもうちょっと足りていないのではないかと思います。机上でいくら暗記物を学んでいても、実体験が伴っていないので、しっかりそれが概念として落とし込めないということもあって、やはり自分で実体験を積む力が弱いのではないかと思います。その一つの理由は、いわゆるスマホ育児です。最近、おうちの方が、「はい」とスマホを渡して、YouTubeで時間を潰させることが多くて、昔の子どもたちはおもちゃもない中で、遊びは自分たちで作って行って、そこで展開していろいろ自然に身に付けていった力が、今の子どもたちにはなくなってしまっていて、与えられたおもちゃ、与えられたYouTube、そして与えられた教材の中で学んでいるということで、自分で見つけていく力が少し弱いのかなと感じています。

小学校のときには、自学自習の時間を「しなさい」と学校から言われたらやります。でも、言われたらやるということしかできないので、中学校に入ったら言わない先生ばかりなので、言わなければやらない。やらなかったら何をするかという、スマホを触るということが起きがちなので、やはり言われなくてもやろうという気持ちが育っていないのかなという気はしました。中学校に入って自分でやるという力が身に付かないので、指示待ち状態ですよね、言われないとやらないというかたちになりがちです。小学校の時に、そういった実体験を伴った概念形成をしっかりとしていく必要があるようには感じました。

【伊原木知事】

ありがとうございます。では、梶谷委員お願いします。

【梶谷委員】

まさに、そこは大きいのだろうと思います。自分たちの頃は、結構外で遊んだり、いろいろやっていたなとか、あの木の高さはどのくらいあるというのを比例で計算したり、そんなことを確かやったよなと思いました。子どもたち同士で遊ぶ機会が減っているのかなと。小・中で一緒に遊んだり、昔は学年を超えて一緒にいろんな活動をしていたのが、今はほとんどそういう場がなくなって、同学年同士で学校の中で遊んでいるのも、少し課題としてあるのではないのかなと思います。

それから、やっぱり子どもたちが本当にやりたい、自分がやりたいと言ったときにやれる環境なのか、「いや、危ないからやめなさい」というかたちで、親とか大人、教師の監督の下に、失敗しないようにという指導が、ひょっとしたら行き過ぎているのかもしれない。そういった意味で言うと、小学生もそうでしょうけれども、特に中学生ぐらいになると、中学生の自主的な活動をどうサポートできるかというところが非常に重要になってくるのではないかなと思っています。ですから、生徒指導の指導の在り方が、枠にはめるところから、若干危険性もあるかもしれませんが、少し生徒のやりたいことがやれるような環境づくりの中で、それと学びをどう結び付けていくか。学ぶことが、自分がやりたいことをやるためには必要だよなという意識があると、そのためには家庭学習もやろうかなというふうになってくるのかなと思います。自分が何か学びたいことなら結構学ぶと思いますけれども、決められた枠でこれをやれと言われると、なかなか意欲が出てこない。そこをどういうふうに場をつくっていくかというのが課題かなと思います。

【伊原木知事】

ありがとうございました。

では、須江委員お願いします。

【須江委員】

私は、子どもがちょうど高校生、中学生、小学生とおりまして、小6の子もいるのですが、勉強しているのを見ていると、最近はタブレットとかパソコンを持って帰って、それをずっといじったりしています。そういったところで、書いて勉強もしているのですが、すぐに答えを探すというか、スマホでもパソコンでも、調べるとすぐに出てきます。スマホも近くに置いていて……

【伊原木知事】

出てきちゃいますからね。

【須江委員】

そういう状況もありまして、考えるよりもすぐに答え、マル・バツにこだわって、バツがあると駄目というような感覚で、バツを深掘りするということではなく、答え探してみたいな、いかに早く効率的にやるかというところに走っているのかなというのは、個人的には感じているところです。

それと、学校も今、小学校とかも見ていると、学校の状況も大変なところがあって、先日も小・中学校の校長先生との懇談会もあったのですが、校長先生が結構大変な状況に陥られています。保護者の対応や、いろんな学習の新しい取り組みなどに対応していたり、環境が変わっていく中で、ちょっと元気がないというか、校長先生っぽい昔の学校の先生のようなパッションというか、そういうところに行くまでもなく、疲弊しているような感じを個人的に受けました。校長先生が元気で、その下で教員の皆さんが元気にモチベーションをアップして教えてあげられる環境づくりもすごく大事です。それから、保護者の教育とかも併せてやっていかないと、小学校の算数の学力低下などにも結果が現れていますけれども、そういったところに出てきているのかなという気はしました。

【伊原木知事】

では、田野委員お願いします。

【田野委員】

私は、地元の小学校とか中学校に本の読み聞かせに行っていて感じるがあります。特に算数に関しては、保育園・幼稚園を卒園する時は、すごく小学校に憧れて、ランドセルを背負ってみたり、そういうすごい憧れがある中で小学校1年生に入って、現実を見るのか、指導のやり方がどうなのかと思うのですが、やっぱり勉強が楽しくないという小学生がいたりします。その辺のつながりをどのように、最初の段階で、勉強はすごく楽しいものなんだよと1年生の時から植え付けて、そのまま行かすというか、そこもすごく大事なのではないかと思います。2年生、3年生になっても、九九ができないまま上がっていくお子さんは一定数いるので、そこからつまづき始めると、3年生なんか、たぶんもう全然算数はやりたがらな

いから、折り紙を折ってみたり。たぶん、自分も楽しくないのでしょうね。かといって、そこまで先生に構ってもらえるわけでもないし、そういうことがあるので、その辺もちょっと、小1からのつながりを考えていくのと、やっぱり小学3年とか4年になっても、学校によっては、できる子とできない子に算数のコースを2つに分けて授業を進めたりしています。先生の数にもよりますが、それをもうちょっと細かに分けてするというかたちで、本当にみんなにちゃんと分らせる、徹底したところをきちっとやったらどうかと思います。

あとは、読み聞かせの時にも思うのですが、大体生徒が落ち着いていない。自分の地元だけかもしれませんが、チャイムが鳴ってもきちんと座れていない状態があるので、きちんと学校に来るところから、時間を守ることからできていない子どもがいます。途中から来てみたり、ギリギリに来てみたり。そういう生活基準がきちんとできていないまま1時間目に入っていくということで、落ち着かないところもあったりするので、家庭も含めて、そういうところから見て、勉強というものを教えていくのが大事なのではないかなと、今回思いました。

#### 【伊原木知事】

ありがとうございます。

では、服部委員をお願いします。

#### 【服部委員】

今日ご説明があった、成果、点数というのは、やはり子どもたちも気になる場所ですし、親も学校も、なんとか結果を出したいと一生懸命されているところだと思います。やはり、先生は教えるのが上手になっていると思います。一生懸命、授業改善もされていますけれども、もしかしたらそれが、生徒たちが自ら考えることを奪ってしまっているのか。先ほど、タブレットですぐ答えが出てくるとか、そういう方向に行かないように気を付けていかなければいけないのではないかと思います。

会社でも、いかに部下、社員たちに自ら気付かせるかということに、常に悩んで考えていることが多いです。やはり、教えたものは案外応用が利かなかったり、世話焼きは甘えの法則につながっていたり、教えまくと何でも聞いてくるとか。社内でも時々、幹部には言っているのですが、大山巖の話を出して、知っちゃっても知らぬふりしようぜというような。でも、一方でそれが先生方の働き方改革にどうつながっているのかなというところは興味があります。確かに時間は減っていますよね。でも、やらないのではなくて、さっき教えないと言いましたけれども、一方で一人一人をしっかり観察していく。リードしたり、コーチングというようなことになるとと思いますが、そういう要素がどれだけ働き方改革の時間削減とか中身に入ってきているのかなというところを、もう少しこの教育委員をしながら勉強していきたいと思っております。

【伊原木知事】

ありがとうございます。

では、教育長お願いします。

【中村教育長】

何か私に言われているような感じがして、非常に委員の皆さん方のご意見はごもっともだと思います。今回の学力テストの成績のこともそうですし、不登校のこともそうですし、何か子どもたちがやらされているというか、枠の中にはめられてしまっている。学びもそうですし、学校生活も。大きな話ですけども、そこに今の学校の在り方、そういうところに根本があって、言い方はあれですけども、本来子どもたちが当事者意識を持って学ぼうとするときに、私は、当事者意識は必要と楽しさだと思っています。楽しいということで主体性も上がっていく。一方で、必要だということになれば、これも当然、主体性や当事者意識は上がっていくので、そういったことをどうつくっていくのかなというところだと思います。低学年は、特に楽しさが必要でしょうし、高学年になってくると、やはり教科の学びと社会というところの中から、学ぶことの意味をしっかりと考えさせる、そういうことにもしっかりと取り組んでいきたいし、その中で、やっぱり自分たちで考えて、自分たちで答えを出していく、そういうプロセスを学校教育の中でつくっていかないと、たぶんこれから先、求められるような力は付きません。そうならないと、個別最適とか協働的な学びはできません。もっと言えば、不登校とか学力の問題というのなかなか解決できないのではないかと思います。ちょっと大きい話ですけど。

【伊原木知事】

ありがとうございます。説明も良かったのですが、1巡目の皆さんの意見が素晴らしくて、十分対抗できたなと思いました。別に競争ではないのですが。

ざっと現状を見せていただいて、悪化しているとか、全く成果が出ていないわけではないけれども、まだまだやるべきことが大きく残っているなと思います。皆さん方からは、細かい話よりも、主に構造的なことについてお話しいただいたわけです。体験、外遊びとか、先生に元気がないというのは心配だよねという話だったり、もしくは楽しさというお話がありました。

昨日、石破総理が、自分は1年ということだけれども、「楽しい日本」というテーマでやったらぼろくそに言われたんだよと。戦前は、強い日本、植民地にされないようにしなきゃと言って、戦争で迷惑をかけてボコボコになって、そのときに「豊かな日本」だということと高度経済成長がうまくいった。でも、何かこれだけじゃないなというとき、わくわくするような、生きていて良かった、住んでいて良かったということで「楽しい日本」というふうにした。評判は悪かったけど、今でも自分はあまり間違った方向性だとは思わないと。

私も、働くときの教会の話、「作業」なのか「仕事」なのか、それとも教会を作っている

んだよ、やっているのが楽しいと、わくわく練習とか、わくわく修業している、強くなるのが楽しい、練習するのが楽しい。昔のイチローとか、今の菅野裕太みたいな。そういう人には、練習はつらいけど頑張らなきゃとか、3時間はやらないと怒られるからということで練習している人なんて絶対にはなわないです。大変なことを、いかに喜びを感じながら、どんどんうまくなっていく、分からないことがどんどん分かっていく、知りたいことが増えていくという、実践というお話もありましたけれども、そういうことにできると本当はいいですよ。

よくある、すごく大変な練習をしている、勉強している人はつらくて、遊んでいる人は楽なのかというと、意外とそうでもない。自分が理解できない授業で、黙って座っているというのはよっぽどつらいです。理解力はそれぞれかもしれないけれども、それぞれの子もたちが、それぞれのレベルでほどうというところで、楽しんで力を伸ばすことができているのか。学校の先生、特に校長先生は学校の経営者ですから、よしここを改善してやるぞと言って、いろいろ大変だけど、ジグザグ行きながら、半年前に比べてここは良くなったぞ、この団結力はとか、いいチームができたとか。そういう、困難もあるだろうけれども、それも楽しみに思いながら、2年後にその学校を去るときに「よっしゃ」という成果を感じられるような。先生にとっての仕事にしても、児童生徒にとっての勉強にしても、本当に楽しい。大変と言われれば大変だけれども、自分とすれば結構楽しんでいるという状態に持っていければいいよなと思っています。

ゲーミフィケーションと、私はずっと1期目から言っていますけれども、私は明日、久しぶりにゴルフをします。財界の、若手経営者の皆さん方とのゴルフです。あれは、叩いた回数を数えちゃいけません、数えてもいいけないし公表してもいいけないと言ってやったら、つまらない散歩です。それが75だろうが120だろうが、世界にとっては全く関係ないのに、自分にとってはものすごい価値がある。ただの散歩とこれが、すごく楽しいゲームになって、一生懸命やっていると体力増強にもなるし、友達とわいわいコミュニケーションにもなる。95だと、え、100切ったの？という感じ。試合だってそうだと思います。サッカーのボールをゴールに何回入れようが、別に何てことはないんです。でも、やっぱり県大会の決勝で、こっちのほうで2回でも多く入れたら、それはすごいことです。そういう、いろんなゲームを通して、本当にやりたい、体力だとか、絆づくりであったり、社会適応性だったり、集団での振る舞い方だとか、いろんなことを身に付けてくれればいいよなと思っています。

では、2巡目に入りたいと思います。今日の教育会議で一番悪いのは、40分しかないことで、次からはぜひ1時間取っておいていただきたいと思います。

#### 【上地委員】

ありがとうございます。今のゴルフの例えはとても分かりやすく、確かにそうなんです。公表しないとくだったら面白くない。人と競うのですが、自己満足もありますよね。自分は今日ここまでやるぞみたいなのがあって。私もゴルフは詳しくないですけど、何かある

らしいですね。

【伊原木知事】

昨日の自分と競争させるんですね。

【上地委員】

そうらしいですね。ゴルフ好きの人によくお伺いするのですが、そのときの気持ちに左右されやすいと言われました。

【伊原木知事】

はい、そうです、メンタルが。

【上地委員】

らしいです、メンタルなんですよ。すごく繊細なスポーツらしいです。

【伊原木知事】

そうなんです、不思議なくらい。

【上地委員】

らしいですよ。強くやればいいというわけではないとお伺いして、なるほどなと思っています。やはり、同じ作業をしても、全くメンタルなんです。そのメンタルがあるということで、私がもう一つ学んだのが達成感です。「よし、今日はできた」とか、そういう感覚がちゃんと得られるかどうか。それから、さっき仲間と一緒にやる楽しさということがありましたね。そこが居場所になり、居心地があり、所属感があるということですね。それが味わえるというのが、もう何よりも大事。ところが、不登校になっている子どもたちは、どうやらそれが学校の中にある。所属感が失われていて、何をしているかという、みんなではないかもしれないですけど、オンラインゲームの中に所属感を見ていて、そこで社会をつくっていて、時にはちゃんと出席してパーティーもするらしいです。そういうところでの人間関係に、もうどっぷりはまっちゃっていて、そしてリアルに戻ってこれないという問題があります。だから、長期化して、そこでひたすら見ている。しかも、それが24時間定期的にやってくるものだから、夜中でもやってしまうということもあって、それで長期化するんですね。なので、日中の健全なゴルフみたいなのところに行って、所属感が得られたり、今日はうまくできたという達成感が得られるような、そういう仕掛けづくりが必要なのかなという気はしました。

【伊原木知事】

そうですね、所属感は大事だと思います。自分はここに居場所があるというのがね。

【上地委員】

そうです。その所属感が何よりも欲しいということです。

【梶谷委員】

そういう意味で言うと、今、不登校の問題でいくと、そういうオルタナティブスクールのなものを民間がやっている。そこと学校がどうつながりながら、居場所をつくりながらやっていくか。学校の中で言うと、どうしても公教育の画一性の中で、そこだと所属感を持ちにくい子もいたりする。だけど、完全に学校から離れたくもない部分があったりする。そこをどうつないでいくかということが、結構必要になるのかなと思ったりしました。

それからもう一つ、教育で言うと、小学校はちょっと厳しいのかなと思ったりしますけれども、中学生ぐらいになると、今の学習指導要領にも、よりよい学校教育を通じてよりよい社会をつくるという目標を、学校と社会で共有しているわけですが、やっぱり自分たちの地域社会はどんなのがよりよい社会なのかということを、子どもたちを交えてもっと議論していくと、じゃあ学校ってどんなことが必要なのかとか、自分たちはどういう学びが要るのか、自分たちはもっとこんな社会にしたいと思ったときにはどういう学びが要るのか、そういう問い掛けをしていくことによって、こういう学びをしたいとか、それと自分がどう生きるのかに結び付いていく。自分がどう生きたいか、自分がどう社会に関わっていけるのか、こんな議論を、本当は、せっかくなので学校を中心に、地域の人も交えながらやっていくことが、地方創生の根幹ではないかと思います。そこで生まれ育った子どもたちが、その地域を自分たちで良くしようと思うのか、ここは駄目だから外へ出ていこうと思うかはすごく違います。そうするためには、中学生ぐらいのうちに、大人と一緒に、この地域をどうするか、そのためにはどんな学びが要るのかを問い掛けながら、そして中学生と小学生、場合によっては高校生ぐらいが一緒になりながら、地域の中での活動と学びをつなげていく、そんな仕掛けづくりが要るのではないかと思います。

【伊原木知事】

ありがとうございます。

【須江委員】

不登校の問題は、県北の地元のほうでも結構ありまして、うちの町の例で言いますと、学区に新しい町ができたり、道ができたり、どうのこうのでちょっとガタガタになってきているところもあります。小学校のときには分かれて学校に行くけど、中学校では一部だけがまた同じ中学校に集まってきたりします。もともとは、例えば大隅神社の氏子さんの単位で、

本当は今まで同じ小学校に行っていたのに、そこがまた人数が増えて2つに分かれたとか、そういう経緯があったりして。そういったところの、さっきの中学校で少数派になる子が不登校になったり、そういう傾向が地元にはあります。そういう弊害があるのですが、でもお祭りのときになると出てきたりするんです。ちっちゃい頃から地域のコミュニティーで、おじいちゃんとかおばあちゃん、地域の人がみんなでその子を見ているので、そういったところのつながりで出てきやすい環境があったり。

先ほどの、27 市町村で教育、町の単位で差があるような感じで、いい影響があると波及するような感じで、僕の周りでは氏子単位だったんですけど、何かコミュニティーとか、そういう単位をもう一度見直して、そこから。一番の元は地域ではないかなと思います。そこができれば、やんちゃな子も悪さはするんですけど、そこでは先輩の言うことを聞くとか、中学校に行ったら、今は部活が地域に移行になっていますけど、そこでは実は部活の先生の言うことはものすごく聞いていたり、そういった関係性というのはすごくこれからも大事なところで、フィーチャーしていくべきなのかなという気はしました。

【伊原木知事】

ありがとうございます。

【田野委員】

また別のことですけど、教師の働き方改革で思うのは、校長のリーダーシップとかも言われていますけれども、それぞれの教師が、先生方も楽しく学校で生活できているのかなというのがちょっとあります。これもある、あれもある、どれもしなくちゃいけないということがあって、その辺の先生の心も余裕を持たせてあげられるような施策も必要かなと。授業だけでなく、生活する上で、やっぱり人間性というか。先生も人間なので、先生が先生じゃなくて、家では自分たちと同じなんだよと。そこで自分たちも先生も学んでいくんだよと。先生も歩み寄るじゃないですけど、その辺の隔たりが、やっぱりこうでなければいけないという、先生も自分自身をがんじがらめにしているところがあるのではないかなと思うので、ちょっとぐらいはじけても私はいいと思うんです。鬼塚ティーチャーじゃないですけど、GTOじゃないですけど、あれは行き過ぎですけど、そういうちょっとはじけるといえるか、はじけるわけではないですが、自分はこういうところがあるんだよと、先生自身も自分を出して行って、子どもたちと本当に接していくことが、これからの時代は、特に心対心じゃないですけど、そういうところも大事になってくるのではないかと。

【伊原木知事】

『坊ちゃん』に出てくる先生方も、結構はじけていますよね。それぞれね。

【服部委員】

知事、明日はよろしく願います。ぜひ1点でも近づけるように頑張りたいと思います。

【伊原木知事】

受けて立ちましょう。

【服部委員】

4ページの中学生の学習意欲に関する説明の、肯定的回答割合が全国よりも低い、ここはすごく気になるところです。僕も、予備校で英文法とか英作文とか単語を覚えることで、すごく英語が楽しくなりましたし、近現代を学ぶことで、選択していなかった日本史を受験科目に、予備校から選んだということも経験しています。もちろん、そのときは点数を取りたいという、競争の中で意欲的になれていたと思います。それもあるとは今も思いますが、もう一方で、今の新入社員とか若い世代を見ていると、社会性とか共同体験みたいなものをもっと身に付けてほしいと社内でも考えています。先日、豊田章男さんが、満タン給油で1,000キロ走る車を開発したいとおっしゃっていました。砂漠でも雪道でも走破すると。それを聞いて、鳥肌が立ったというか、企業の社会的責任とか、社会課題を捉えるということはすごいなと思いました。じゃあ、子どもたちとか若い世代が、どこでそういうソーシャルを身に付けていくのかということをもっと考えないといけないし、学校ではそういったことについてどう取り組んでいるのか、何ができるのかなということは、私もまだ理解できていません。でも、会社においては、それは経営者の責任だと思いますし、学校で言えば、大人とか先生方の役割なのかもしれないなと思います。そういったところも考えていくと、肯定的回答割合もプラスになっていくのではないかと思います。

【伊原木知事】

ありがとうございました。

【中村教育長】

いろいろ皆さまご意見をおっしゃられたと思いますけれども、私は、先ほど知事も言われたように、何かやるときに、どうせやるのであれば前向きにというところが、たぶん今の学校にとって一番大切。特に管理職の意識ですね。今、いろんな社会課題があって、教育にもこれをやってほしい、これまでいろんなものが来るんですけど、全てそれをネガティブに受け止めるのと、いやいや学校と子どもたちにもいいからと受け止めてやるのでは、たぶん全然違うと思うんですね。

JALの管理職研修で、非常にピンチの課題が与えられて、与えられたときにみんな一斉に「チャンス」と口に出す。それから解決策を導いていくと。何か課題があったときに、それにどう向き合うか。前向きに向き合うのはとても大切じゃないかなと思っています。同じ

ことは、たぶん教職員にとっても、今は本当にいろんな課題がありますが、マインドとして、前向きなマインドでないと解決できない課題ばかりです。地域とつながるということも、やらされてやるのか、いやそれはいいことだからと思ってやるのかでも全然変わってきます。その意識改革のところをしっかりとやりたいなという思いが一つです。

もう一つは、働き方改革に絡んでも、授業についてもそうですけれども、教育D X、これをどう進めるのかということです。特に生成A Iが入ってきて、あれでたぶん働き方も劇的に変わる。先ほど言った個別最適の学習なんかも、たぶん劇的に変わってくると思います。ですから、そのステップでもいいですけれども、そういったことに早めに着手して、我々も経験値を持っておかねばならない、そんな思いも今しているところであります。

以上です。

#### 【伊原本知事】

大変いいご意見も頂きました。私は、もともとの思いとすれば、これだけそれぞれのデータを見せていただいたので、かなりテクニカルな話になるのかなと思っていました。私自身で言えば、不登校が実は半分ずつ入れ替わっているということは、ほぼ固定しているよりは流動性があるわけですから、実はここがチャンスだよなど。悪くなる子もいるけどいい子もいるわけで、そこにはものすごくいろんな事例があって、もっとちゃんと研究してくれよみたいな、何があって良くなったのか。そういうことをグリグリ今日はやることになるのかと思っていましたら、むしろその裏側の、人としての意欲だとかというお話になりました。そもそも前段も含めて、少年院に行ったときの話とか、いろんな保護者会に行かれたとか、そういう皆さん方のそれぞれの体験、もしくは地域の事情を持ち寄ってここでご披露していただけるというのは、まさに教育委員会の意義そのものなので、本当にありがとうございます。そういうおかげで、専門の人が一生懸命やっていることが、市民、県民から見て、とんちんかんなことを一生懸命やっているぞということになりづらくなっているということで、大変ありがとうございます。

倉敷のG 7教育大臣会合のときに、7人の大臣のうちの2人の人が同じことを言われていました。うちの国で、教育は今何が一番テーマですかと聞くと、教育を改善しようと思ったら、教える先生方が意欲を持って出来なければいけないと。つらい仕事で、義務で嫌々やっているということになったら、絶対にいい授業になりようがないし、いい雰囲気にならないし、いい生徒、いい成績にはならないので、先生というのが非常にやりがいがある、日々頑張れる仕事になるように、環境整備などをするのが私の仕事ですと言われました。経営者で言えば、カスタマーサティスファクションは大事だけど、エンプロイーサティスファクションが大事だよなという議論をしていたけど、それは今、私の頭にあまりなかった、そうかと思ったことを、もう一度ここで思い出させていただきました。

本当に、今、学校の先生は人気がないと聞いています。現に競争倍率はどんどん下がっているわけですが、我々も、とにかくつらくないように、残業があまり激しくならないように、

いろんなハラスメントから守る。それぞれすごく大事ですが、目的とすれば、もともと本来、楽しいというか、喜びがあるはずの教育を存分に感じていただいて、意欲と子どもたちが日々成長していくことを喜びにして、また卒業もしくは学年が上がって手が離れるときに、1年でこの子は結構伸びたし、あの子も頑張ったと。そういう先生の仕事が本当に意義深い、日々素晴らしいし、振り返ってみても素晴らしい仕事だと広く認識してもらえるようにすることが、我々の望んでいる結果を出す、すごく大事な道筋だと、今日皆さん方のお話から強く感じたところであります。ぜひ、どのようにしていくのか、仕組みのことも予算のことも。

私がずっと申し訳なく思っているのは、教育、教育と言っている割には、そんなに教育の予算は増やせていません。そんな中で実績を上げていただいて、本当にありがたいです。やはり、財政再建というのがすごく私の頭に重くて、教育分野ではあまり大盤振る舞いはできていません。でもこれは大事です。ぜひみんなで頑張って、さらに岡山の教育、小・中学校、高校、養護学校、それぞれのところで、ほかの県からうらやましがられるような状態にしたいと思いますので、よろしくお願いします。

**【総合政策局長】**

では、以上で総合教育会議を終了させていただきます。

ありがとうございました。